

きこえが悪いと感じたら、まずは耳鼻咽喉科の受診を！



きこえが悪いと感じたら、まずは耳鼻咽喉科を受診し、治療が必要な病気がないか調べましょう。

治療することができない難聴（例えば加齢性難聴など）であると判明した場合、補聴器があなたのお役に立つかもしれません。

補聴器の適応はきこえの悪さだけでは決まりません！

難聴の程度は軽度であったとしても、生活に不自由を感じているようでしたら補聴器の適応はあります。

どのような生活環境で、きこえに何を求めているかにより、補聴器の必要性は千差万別です。



補聴器は買って終わりではありません。きこえのトレーニングが最も重要です！

補聴器は買ってつければすぐに使えるわけではありません。あなたの聞こえの状態に合わせた調整と、自分の脳を変える練習（きこえのトレーニング）が必要です。

世間一般で補聴器に対して悪いイメージ（うるさいばかりできこえない、高いばかりで役に立たない）をお持ちの方が多なのは、このような適切な対応が取られていないからです。

補聴器医療が成功するためには、① 必要な設備（音場検査が行える広い防音室や補聴器特性測定器など）と、② 必要な人材（補聴器相談医/補聴器適合判定医と認定補聴器技能者など）と、③ あなたのきこえるようになりたいという強い思いの3つ全てが必要です。



当院でああなたのきこえのちからを最大限引き出してみませんか？

補聴器は万能の機械ではありません。しかし、適切な調整ときこえのトレーニングにより、あなたのきこえの力を最大限活用することができるかもしれません。

今よりも言葉が聞こえるようになったら、どんなことがしたいですか？より良いきこえの未来を想像し、わたしたちと一緒に補聴器によるきこえのトレーニングをしてみませんか？

